はじめに

2014 年 12 月 20 日（土），研究セミナー「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ（青旗）』のデジタル化と公開の可能性」が，大阪大学豊中キャンパスの豊中総合学館で開催された。13 時から 17 時過ぎの間，5 人による報告（一人あたり 30 分）と参加者との質疑応答を含めた討論（60 分あまり）が行われた。また時間を設けて大阪大学総合図書館に移動し，新設の貴重コレクション室に保管されている『フフ・トグ（青旗）』の原紙および複写，CD に収められた画像などを閲覧した。

このブックレットには，当日の報告にもとづく論考 5 篇と討論の書き起こしを収めている。5 人の報告は，いずれも『フフ・トグ（青旗）』ほかの近代東北アジア史資料の整理・調査，デジタル化や公開に関わる研究状況をあつかったものである。加えて，研究セミナー参加者による『フフ・トグ（青旗）』に関わる研究 2 篇を収めた。

『フフ・トグ（青旗）』は，戦前期の 1940 年代前半に満洲国で発行されていたモンゴル語の新聞である（全 178 号）。時代の転変の中で散佚したため，大阪大学の石濵文庫が所蔵するほぼ全号（5 号分のみ欠）は，大変貴重である。これまでも，その資料的価値は国際的に注目されてきた。

石濵文庫は，東洋学者・石濵純太郎（1888 年～1968 年）旧蔵のコレクションである。大阪外国語大学附属図書館（現在の大阪大学箕面キャンパスの外国学図書館）に収められていたが，2014 年秋に他の貴重図書ともども，大阪大学豊中キャンパスの総合図書館に移転した。

本ブックレットに報告・研究を寄せている周太平，内田孝，娜仁格日勒の三氏は，早くから石濵文庫の『フフ・トグ（青旗）』の資料価値に注目し，調査・研究を進め，公開の方法も検討してきた。一方，鉄鋼氏も『フフ・トグ（青旗）』を全面的に利用した修士論文を平成 26 年度に提出している。堤一

昭は石濵文庫の拓本資料から調査・研究を始めるとともに，資料の多様さに応じた研究者・グループのネットワーク作りや保存，公開の方向性を模索していた。これらの動向に注目した田中仁氏は，NIHU 現代中国研究・東洋文庫拠点（政治史資料研究班）主催で本研究セミナーを企画された。

本セミナーには，石濵文庫の受け入れや，『フフ・トグ（青旗）』の調査・研究初期の状況を知る橋本勝，西村成雄両氏をはじめ，40 名あまりが参加した。本ブックレットの「討論」にも載るように，参加者から多くの有益な情報・意見が寄せられた。参加者の皆さまにあらためて厚く御礼申し上げたい。

なお，総合図書館，外国学図書館の関係者には，セミナー当日の『フフ・トグ（青旗）』の閲覧をはじめ，協力・配慮をいただいてきた。石濵文庫は，大学，図書館の広報誌でも紹介され，懐徳堂文庫と並ぶ大阪大学の貴重なコレクションとしても注目されている（『阪大 NOW』No.137，2013 年 7 月。『フフ・トグ（青旗）』の紹介あり。;『大阪大学図書館報』48 巻 2 号，2015 年 2 月）。

本セミナーのタイトルに掲げた「デジタル化と公開」は，「可能性」から実現に向けて第一歩を記したばかりである。今後もこの事業の進展を見守り，ご助言いただければ幸いである。（堤一昭）